

インカム導入で得たのものは業務効率向上だけではなく ～多職種スタッフの動きと意識が変わった～

施設名：医療法人 天仁会

介護老人保健施設パークヒル天久

(通所リハビリテーション)

発表者：与那嶺康斗、眞境名馨、宮平和加奈

【はじめに】

当事業所は、定員 60 名で大規模事業所に分類される。デイルームと機能訓練室が分かれており、その部屋の行き来も歩行訓練の一環としている。その為フロア全体は広く、職員の総合的な移動距離は長く、行き来については状況によって、改善できそうな動きや無駄な動きだったということも少なくない。職員の移動の効率向上は、ご利用者と関わる時間が増え、本来のサービスの向上や事故防止など迅速な対応に繋がると考え、今回、業務改善を目的としてインカムを導入したので、その活用と効果について報告する。

【事例紹介】

ご利用者を機能訓練室や活動へ案内する際、担当職員がご利用者の居場所を把握するのに時間がかかり、探すことが一般的で、移動するのに時間が費やされていた。

通所サービスでは、次のような不安・心配要素が考えられる。(1) 職員間の情報共有、(2) 伝達漏れ、(3) 事故発生(座り込み、転倒など)

事故防止策は常に意識し実施しており、転倒リスクが高い方の情報共有は行っている中でも、他のご利用者に声をかけられ、その場を離れてしまうなど、スタッフ間の連携が不十分となり、度々事故が発生してしまっていた。

そのような中、職員から「機能訓練室とデイケア内で、リアルタイムに情報共有や伝達が行える IT 機器を導入出来ないか」と意見があった。

時を同じくして、施設より『職員の効率の良い動き』『ご利用者と関わる時間の増加』『事故の抑止』『事故発生時の迅速な対応』を目的に、インカムを導入すると連絡があった。

導入前は、当事業所における活動案内時のトラブルや転倒・座り込みなどの事故報告は 11 件であった。ミーティングで振り返りを行った結果、スタッフ間の声掛け、注意、認識不足が主な原因であると考えられた。

インカムの使用を開始すると、移動や情報伝達

にかかる時間が短縮され、ご利用者一人一人へのアプローチの確実性の向上や、ケアが手厚くなることで、レクリエーションやイベント活動、安全管理に対する気持ちの「ゆとり」が生まれてきた。

また、リアルタイムで情報共有することで、インシデントや事故に気づきやすくなり、未然に事故を防止でき、事故発生時も迅速に連絡を取り合って対応できる、それは明らかに、職員の負担やストレスの軽減、モチベーション向上にも繋がっているという意見が増えた。

【考察】

インカム導入後の効果を確認するため、6 ヶ月後に 20 名スタッフを対象にアンケートを実施した結果、概ね職員の満足度が向上していることが解った。

取り組みの成果として、座り込みや転倒などの事故は 9 件から 5 件へ、リハビリや活動への案内トラブルが 0 件と全体の件数が 6 件減少した。

以前から職員が不満に思ってきた要素の改善ということもあり、職員へ使用上の目的と周知が早く、全員がスムーズにインカムの活用を行うことができたことで、事故やトラブルの減少に繋がったと考えられる。

【まとめ】

インカムの導入により、これまで職員の心の奥にあった不安と不満の解消に一步前進することができた。

導入の目的どおり、業務の効率化が図れたことで、各職員がご利用者と関わる時間が増えた。事故やトラブルの発生は、減少したがゼロという結果には至っていない。

インカムは併設する老健入所でも同時に導入しており、互いに活用に幅を持たせられるように、研鑽を積み重ねながら、更なる件数の減少を目指していきたい。